

社 会

1 原典教科書と分冊の方針

(1)原典教科書（以下、「原典」とする。）

【地理】 発行者：教育出版 書名：「中学社会 地理 地域にまなぶ」

【歴史】 発行者：教育出版 書名：「中学社会 歴史 未来をひらく」

【公民】 発行者：教育出版 書名：「中学社会 公民 とともに生きる」

(2)分冊と原典との対応

地理	1	地理の学習を始めるにあたって 教科書の使い方 地理にアプローチ 地図やグラフを使いこなそう 日本の都道府県のあらまし （まなびリンク より） 世界の国々のあらまし （まなびリンク より） 用語解説 巻末資料 1 ～ 3 折り込み 地図を活用しよう 1 オリンピックはどこで開かれるのだろう 2 宇宙からとらえた日本列島 3 ジオパークって何だろう 4 日本にはどんな世界遺産があるのだろう
	2	第1編 世界と日本の地域構成 第1章 世界の地域構成 第2章 日本の地域構成
	3	第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界の人々の生活と環境
	4	第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 1 アジア州
	5	第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 2 ヨーロッパ州 クロスロードⅠ ヨーロッパがアフリカに残したものは 3 アフリカ州
	6	第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域

地理		4 北アメリカ州 5 南アメリカ州 6 オセアニア州 クロスロードⅡ 国境を越えて移動する人々
	7	第3編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の方法を学ぼう 第2章 日本の特色と地域区分 1 変動する大地、安定した大地 2 変化に富む日本列島の地形（1） 3 変化に富む日本列島の地形（2） 4 四季のある気候
	8	第3編 日本のさまざまな地域 第2章 日本の特色と地域区分 5 自然災害に向き合う 6 災害から身を守るために 7 変化する人口 8 人口分布のかたよりがもたらす問題 9 輸入に頼る資源・エネルギー 10 日本の産業活動と立地 11 交通・通信による結びつき 学習のまとめと表現（第2章）
	9	第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 1 九州地方 2 中国・四国地方 クロスロードⅢ 「住み続けられる」地域づくり
	10	第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 3 近畿地方 4 中部地方 クロスロードⅣ モノから見えてくる地域
	11	第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 5 関東地方 6 東北地方

地理		クロスロードⅤ 震災の経験を未来に生かす
	12	第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 7 北海道地方 クロスロードⅥ アイヌ民族の文化に学ぶ 第4章 地域のあり方
歴史	1	教科書の使い方 第1章 歴史のとらえ方・調べ方 歴史にアプローチ 巻頭資料・巻末資料等 1 巻末2～3 歴史年表 2 巻頭1～2 私たちにつながる歴史 3 歴史学習の始めに 4 巻末4 世界地図の歴史 5 巻末1 昔の国と、都道府県の対照表 ※8と対応 6 巻末5・6 各地の主な遺跡・史跡・できごと ※8と対応 7 巻末1 江戸時代の産業と交通 ※8と対応 8 日本地図 ※5～7と対応 1. 日本列島全体 2. 本州東部・関東南部 3. 西日本・畿内 9 世界地図（比較・対照を想定し、全ての縮尺・図法等を統一した） 1. 2世紀ごろの世界（原典 p 27） 2. 8世紀ごろの世界（原典 p 39） 3. 13世紀ごろの世界（原典 p 72） 4. 16世紀ごろの世界（原典 p 103） 5. 列強による世界の分割（原典 p 184） 6. 第一次世界大戦中の世界（原典 p 213） 7. 東西両陣営の対立（原典 p 258）
	2	第2章 原始・古代の日本と世界 1節 人類の出現と文明のおこり 2節 日本の成り立ちと倭の王権 3節 大帝国の出現と律令国家の形成 4節 貴族社会の発展
	3	第3章 中世の日本と世界 1節 武家政治の始まり 2節 ユーラシアの動きと武家政治の変化 3節 結びつく民衆と下剋上の社会

歴史		
	4	第4章 近世の日本と世界 1節 結びつく世界との出会い 2節 天下統一への歩み 3節 幕藩体制の確立と「鎖国」 4節 経済の成長と幕政の改革
	5	第5章 日本の近代化と国際社会 1節 近代世界の確立とアジア 2節 開国と幕府政治の終わり
	6	第5章 日本の近代化と国際社会 3節 明治維新と立憲国家への歩み 4節 激動する東アジアと日清・日露戦争 5節 近代の産業と文化の発展
	7	第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と民族独立の動き 2節 大正デモクラシー 3節 恐慌から戦争へ 4節 第二次世界大戦と日本の敗戦
	8	第7章 現代の日本と世界 1節 日本の民主化と冷戦 2節 世界の多極化と日本 3節 冷戦の終結とこれからの日本 歴史学習の終わりに
	9	各章の「学習のまとめと表現」
公民	10	特設ページ《全19テーマ》 身近な地域の歴史を調べよう（6テーマ） 歴史を探ろう（13テーマ）
	1	公民の学習を始めるにあたって 教科書の使い方 公民にアプローチ 日本と世界の歩み（年表） 第1章 私たちの暮らしと現代社会 1節 私たちが生きる現代社会 2節 現代につながる伝統と文化 欧文略称

公民		巻頭（現代を生きる私たち）、巻末（持続可能な未来を目指す人々）
	2	第1章 私たちの暮らしと現代社会 3節 私たちがつくるこれからの社会 第2章 個人を尊重する日本国憲法 1節 日本国憲法の成り立ちと国民主権
	3	第2章 個人を尊重する日本国憲法 2節 憲法が保障する基本的人権
	4	第2章 個人を尊重する日本国憲法 3節 私たちと平和主義 第3章 私たちの暮らしと民主政治 1節 民主政治と日本の政治
	5	第3章 私たちの暮らしと民主政治 2節 三権分立のしくみと私たちの政治参加
	6	第3章 私たちの暮らしと民主政治 3節 地方自治と住民の参加
	7	第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済活動 2節 企業の生産のしくみと労働
	8	第4章 私たちの暮らしと経済 3節 市場のしくみとはたらき 4節 金融のしくみと財政の役割
	9	第5章 安心して豊かに暮らせる社会 1節 暮らしを支える社会保障 2節 これからの日本経済の課題
	10	第6章 国際社会に生きる私たち 1節 国際社会の平和を目指して
	11	第6章 国際社会に生きる私たち 2節 国際社会が抱える課題と私たち 終章 私たちが未来の社会を築く 1節 持続可能な未来の社会へ 公民の学習の終わりに
	12	学習資料編 日本国憲法 諸法令集

2 編集の具体的方針

編集にあたっては、基本的には原典に大きな変更を加えることなく、点字を常用して学習する生徒（以下、「生徒」という。）の障害の特性に応じるため、視覚的な情報保障が不十分なため活動として成り立ちにくいものや理解しにくい等の題材及び教材（以下、「教材等」という。）について、（１）～（２）の特性を踏まえ「変更」「差し替え」「追加」「削除」しながら点字化を行う。

（１）認知の特性への配慮

視覚に障害がなく、目で見て情報を把握する場合、全体像を一度にとらえたり、ある部分を詳細に確認したり、全体と部分や複数の資料を見比べながら比較したりすることを容易にできる（即時的把握）。

一方、視覚に障害があり、特に点字や音声で学ぶ場合、手で触ることや耳で聞くことで情報を把握するため、全体像を一度にとらえることは難しく、触った部分や聞いた内容をつなぎ合わせて全体像を把握することとなり、ある部分を詳細に確認したり、全体と部分や複数の資料を比較したりすることは難しい（継時的把握）。

このような認知の特性に加え、触覚は視覚に比べて弁別の精度が低いため、触って認知しやすいよう本質的な内容を選び出し情報を省略したり、写真・図・表・地図等を文章化、数値化したり、必要に応じて補足の情報を加えたりする場合がある。あわせて、複数の図等を比較する場合に、基準となる図法を揃えるなど、できるだけ比較しやすい位置関係となるようにしている。さらに、題材の本質的な理解を促すために視覚以外の保有感覚を総合的に活用するなどの配慮が必要な場合がある。

- ・視覚以外の保有する感覚に依存した学習に基づいた配慮
- ・視覚的な情報に依存する認知処理に基づいた理解を促す教材等にかかる困難が生じる場合の配慮など

（２）文字処理や点字表記上の特性への配慮

原典のレイアウトから内容の関係性や順序など文章の流れがわかりやすくなるよう考慮するとともに、情報量の調整や配置の調整など適宜行う必要がある。また、原典は、文字の大きさにより項目の重要度を表している場合、色や字体で重要項目や強調の意味で使用されている場合、図形や線等を原典に書き込む場合等があるため、通常の方法（墨字）と同等に理解できるよう点字表記の工夫が必要な場合がある。

- ・表音文字である点字表記上の特性にともなう配慮など

3 編集の具体的内容

（１）各分冊の構成と順序

【地理】

① 分冊の基本的な構成と順序は次の通りとする。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・表紙・目次・学習コラム・特設ページの目次・（※第１巻のみ）地理の学習を始めるにあたって、教科書の使い方・本文・学習コラム・資料（LOOK!・写真・表・グラフ・地図・図・THINK!）等・奥付 |
|---|

- ② 目次には、その巻に掲載する大単元名・中単元名・小単元名を示す。ただし、第1巻の目次には、他の分冊の大単元名・中単元名も記す。
- ③ 学習コラム（「地理の窓」「地理の技」）及び特設ページ（クロスロード）の目次には、その巻に出てくるもののみを掲載する。
- ④ 小単元（原典の見開き2ページ）については、「題名」「構成」「学習課題」「本文」「側注解説・難しい用語の解説（関連する本文の直後に掲載）」「地理の窓」「地理の技」「資料（「LOOK!」「THINK!」を含む）」「確認!」「表現!」「SDGs」の順に掲載することを基本とする。
資料については、原典に付されている番号順に掲載する。原典の見開き2ページの左ページ下にある「章のタイトル」及び右ページ下にある「各分野との関連」については削除する。
- ⑤ 「構成」については、「本文」「地理の窓」「地理の技」「LOOK!」「資料」「THINK!」「確認!」「表現!」の各開始位置のページ数（下がり数字）・行数を掲載する。
- ⑥ 資料に関して、原則として「LOOK!」がある場合は1つ目の資料の前に配置する。キャラクターの吹き出しがある場合は資料との関連性を見ながら適宜順序を決めて配置する。また、「THINK!」については、原則として関連する資料の直後に配置する。資料に番号が付されていない場合は、適宜順序を決めて配置する。
- ⑦ 「学習のまとめと表現」の中の「HOP!」は「知識・技能」、「STEP!」は「思考力・判断力・表現力」、「JUMP!」は「学びに向かう力」の内容であるが、点字では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の文言は削除している。
- ⑧ 特設ページ（クロスロード）については、「題名」「関連するSDGs」「本文」「資料」「TRY!」の順に掲載することを基本とするが、資料については本文との関連性を考慮して本文の途中に掲載することがある。
- ⑨ 各分冊は原則として配置順に掲載したが、一部その順序を変えた箇所がある。これは、当該内容の配本時期や実際の使用場面を考慮して決定したものである。
変更したものは、
第1巻 本教科書の使い方と統計資料・用語解説を中心とした内容であり、普段使用する分冊と同時並行して授業で扱われるべき内容である。
- ⑩ 原典の巻末にある「さくいん」は削除する。

【歴史】

- ① 分冊の基本的な構成と順序は次の通りとする。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・表紙 ・目次 ・学習コラムの目次 ・（※第1巻のみ）教科書の使い方、歴史学習の始めに ・本文・学習コラム・資料（写真・表・グラフ・地図・図・THINK!等） ・奥付 |
|--|

- ② 目次には、その巻に掲載する大単元名・中単元名・小単元名を示す。ただし、第1巻の目次には、他の分冊の大単元名・中単元名も記す。
- ③ 学習コラム（「歴史の窓」「歴史の技」）の目次には、その巻に出てくるもののみを掲載する。
- ④ 各章の冒頭の年表「これから学習する時代」は「年代」「日本」「中国」「朝鮮」の順に掲載する。「これからの学習に登場する場所」は地名と現在の都道府県名を掲載する。

- ⑤ 小単元（原典の見開き 2 ページ）については、「題名（時代スケール）」「構成」「学習課題」「本文」「側注解説（関連する本文の直後に掲載）」「解説（関連する本文の直後に掲載）」「歴史の窓」「資料」「確認!」「表現!（節をとらえる）」の順に掲載することを基本とする。資料については、原典に付されている番号順に掲載する。原典の見開き 2 ページの左ページ下にある「他分野との関連」は削除する。
- ⑥ 「構成」については、「本文」「解説」「歴史の窓」「歴史の技」「資料」「THINK!」「確認!」「表現!（節をとらえる）」の各開始位置のページ数（下がり数字）・行数を掲載する。
- ⑦ キャラクターの吹き出しがある場合は資料との関連性を見ながら適宜順序を決めて配置する。また、「LOOK!」「THINK!」「TRY!」「歴史の技」については、原則として関連する資料の前後に配置する。資料に番号が付されていない場合は、適宜順序を決めて配置する。
- ⑧ 第 1 巻の後半部分（巻頭資料・巻末資料等）において、学習上の効果を考え、次のような工夫をしている。
- ア．年表は、「日本の歩み」と「世界の歩み」を比較しながら学習できるように、左右の見開きを利用して記した。
- イ．「歴史」の初期段階においては、生徒の地理的な知識が十分でない事が想定されるため、大まかな位置関係が確認しやすいよう、折り込みを含む見開き 3 ページで大型の「日本地図」を示した。また、位置を確認すると共に、古い地名や他地域との繋がり等が意識しやすいよう、これらの資料に「県番号」を用いて対応させた。
- ウ．時代が異なる「世界地図」を比較・対照することで、時代の移り変わりによるグローバルな変化が読み取れるよう配慮したため、各章から代表的なものを抽出して、並べて配置した。また触察において比較しやすいよう、全ての図の縮尺・図法・範囲等を均一に揃えた。一部の地図は折り込みを含む見開き 3 ページで示した。
- ⑨ 「学習のまとめと表現」については、原典との配置を変更し、第 9 巻に配置する。「HOP!」は「知識・技能」、「STEP!」「JUMP!」は「思考力・判断力・表現力」の内容であるが、点字では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の文言は削除している。
- ⑩ 特設ページ「身近な地域の歴史を調べよう」「歴史を探ろう」については、原典との配置を変更して、第 10 巻に配置する。SDGs は番号と略称を記した。
- ⑪ 原典の巻末にある「さくいん」は削除する。

【公民】

- ① 分冊の基本的な構成と順序は次の通りとする。

- ・表紙
- ・目次
- ・学習コラムの目次
- ・（※第 1 巻のみ）公民の学習を始めるにあたって、教科書の使い方、公民にアプローチ、日本と世界の歩み（年表）
- ・本文・学習コラム・資料（LOOK!・写真・表・グラフ・地図・図・THINK!・判例ファイル）等
- ・（※第 1 巻のみ）欧文略称、巻頭、巻末
- ・奥付

- ② 目次には、その巻に掲載する大単元名・中単元名・小単元名を示す。ただし、第1巻の目次には、他の分冊の大単元名・中単元名も記す。
- ③ 学習コラム（「公民の窓」「公民の技」「クリップ」）の目次には、その巻に出てくるもののみを掲載する。
- ④ 各章の冒頭については、掲載されている写真のタイトルととびらクイズを掲載する。とびらクイズの答えは、各章の冒頭部分に続く「第○章の学習のはじめに」の最後に記す。
- ⑤ 小単元（原典の見開き2ページ）については、「題名」「構成」「学習課題」「本文」「側注解説・難しい用語の解説・用語解説（関連する本文の直後に掲載）」「クリップ」「公民の窓」「公民の技」「資料（「LOOK!」「THINK!」を含む）」「確認!」「表現!」「SDGs」の順に掲載することを基本とする。資料については、原典に付されている番号順に掲載する。原典の見開き2ページの左ページ下にある「小学校、他分野、他教科との関連」及び右ページ右にある「学習パート」については削除する。
- ⑥ 「構成」については、「本文」「クリップ」「公民の窓」「公民の技」「LOOK!」「資料」「THINK!」「確認!」「表現!」の各開始位置のページ数（下がり数字）・行数を掲載する。
- ⑦ 資料に関して、「LOOK!」がある場合は関連する資料の前に配置することを基本とする。キャラクターの吹き出しがある場合は資料との関連性を見ながら適宜順序を決めて配置する。また、資料に番号が付されていない場合は、適宜順序を決めて配置する。
- ⑧ 特設ページ『持続可能な社会に向けて』の掲載位置は原典と同じとし、「持続可能な社会に向けて1」のようにタイトルに番号を付す。「題名」「本文」「資料」「TRY!」の順に掲載することを基本とするが、資料については本文との関連性を考慮して本文の途中に掲載することがある。
- ⑨ 「学習のまとめと表現」の中の「HOP!」は「知識・技能」、「STEP!」は「思考力・判断力・表現力」、「JUMP!」は「学びに向かう力」の内容であるが、点字では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の文言は削除している。
- ⑩ 『用語解説』は、側注解説・難しい用語の解説と同様に、関連する本文の直後に掲載する。
- ⑪ 原典の巻末にある「さくいん」は削除する。

（2） レイアウト

全体に関わるレイアウトについては原則として次の通りとする。

- ① 大単元（章名）を9マス目から記す。次の行を空行とする。
- ② 中単元の題名を7マス目から記す。番号の後2マスあける。番号には記号を付さない。次の行を空行とする。
- ③ 小単元の題名を5マス目から記す。番号は1． 2． …のようにピリオドをつける。副題は改行し、3マス目から棒線（②⑤②⑤）で開き、棒線で閉じる。次の行を空行とする。
- ④ 「構成」については、5マス目から「構成」と記し、その次の行の3マス目から、「本文の見出し名」「地理の窓等の学習コラム名」、「資料番号とその種別」「LOOK!」「THINK!」「TRY!」等の項目名と、掲載ページ・行数を目次の形式で記す。ページは下がり数字で示す。次の行を空行とする。
- ⑤ 「学習課題」については、5マス目から「学習課題」と記す。その次の行の3マス目から内容を記す。次の行を空行とする。
- ⑥ 本文の見出し名を5マス目から記す。本文は3マス目から記す。次の行を空行とする。
- ⑦ 本文中に出てくる「側注」・「難しい用語」については、ひとまとめにして各見出しの本文の後

の、次の行に5マス目から「—— 注 ——」と記し、その次の行から記す。次の行を空行とする。見出しごとに「注」の番号を1から振り直す。公民については「用語解説」も同様に扱う。

- ⑧ 小単元の「LOOK!」「確認!」「表現!」については、5マス目から記す。改行し、3マス目から内容を記す。
- ⑨ 番号のついた資料、「地理の窓」・「歴史の窓」・「公民の窓」・「クリップ」等は枠囲みし、本文と区別できるようにする。次の行を空行とする。
- ⑩ 枠囲みをする際、囲みを開く枠線の5マス目から「地理の窓」「1 写真」などのように項目名を記す。題名を次の行の7マス目から記す。
- ⑪ 枠囲みをする資料で原典の資料種別を変更した場合は、「1 表(グラフ)」のように、点字教科書における種別を書いた後、原典の種別を丸かっこ内に示す。なお、資料番号の後は1マスあける。
- ⑫ 「THINK!」については、5マス目から「THINK!」と記し、次の行の3マス目から内容を記す。ただし、公民については、関連する問いのみを波線枠で囲む。
- ⑬ 「TRY!」については二重線で枠囲みする。
- ⑭ 「Q」は前の資料から1行あけて3マス目から「Q小見出し符」を記し、続けて内容を記す。
- ⑮ 「見×考」は、該当箇所には「みか」と記す。
- ⑯ 背表紙には、「社会(地理) 1/12 中学部」のように、教科(分野)と巻数を示す。
- ⑰ 吹き出し等キャラクターの発話については、3マス目から発話者の名前を記し、その後2マスあけて発言内容を第1カギで囲む。一つまたは連続する発話の前後を1行あける。
- ⑱ 「・○○○」等の箇条書きについては、原則として「1. ○○○、2. ○○○、3. …」のようにピリオドを付けて番号を付す。下位項目がある場合は「ア. ○○○、イ. ○○○、ウ. …」とする。
- ⑲ 小単元の終わりに終止線(②の点)を入れる。
- ⑳ 地理の第1巻にある用語解説については、枠囲みせず、7マス目から用語解説と記す。次の行を空行とし、その次の行の3マス目から用語を記し、小見出し符に続けて解説を記す。
- ㉑ 目次の終わりに終止線(②⑤の点)を入れる。
- ㉒ 原典の該当ページの番号は、点字教科書のページ行に「メの字」で挟んで左側に記す。その際、原則として小單元ごとの見開きページの番号を記す。

(3) 位置を示す表現

- ① 「上(下)の～」や「右(左)の～」という原典の紙面上での位置を示す表現は、「p○○の～」または「次の～」などのように点字教科書中の位置に合わせた表現に変更する。
- ② 原典において位置を示す表現がない場合でも、点字教科書中で図やグラフ等の参照ページを書き加えることが効果的な場合はその都度指示する。
- ③ 「構成」・「本文」等で、ページ・行数を示す場合、ページ数のみであればp○○・p○○～○○とする。ページ・行数の両方を示す場合は、ページを下がり数字として略記する。この場合pは付さない。

(4) 本文の取り扱い

- ① 太字で示された語句については、第1指示符で囲むことを基本とする。ただし、太字がかぎや二重かぎで囲まれているに場合は、第1指示符を省略する。

- ② クォーテーションマークは第1カギとする。
- ③ 「注」・「難しい用語」については、ひとまとめにして本文の見出しが変わるごとに1から番号を付す（原典と番号が一致しない箇所もある）。ひとつしか無い場合、番号は付さない。注記符は該当する言葉に前置する。
- ④ 特定の用語を参照するために、原典の本文中で用語の下に書かれている（p. ○○→、←p. ○○）については削除する。
- ⑤ 地理・公民の「用語解説」に掲載されている用語については、本文中に「ヨー」を文中注記符で囲った記号を当該の用語に前置する。当該の用語の解説が書かれている場所は、「注」を各位置に「ヨー」を文中注記符で囲み、1マス空けてページ・行数を書くことで示す。ページ数は下がり数字とする。なお、地理では第1巻「用語解説」にすべての用語を五十音順に掲載する。また、その後にはテーマ別にした用語とその解説があるページをリストにしに掲載する。公民の「用語解説」は「側注」・「難しい用語」と同様の扱いとし、各見出しの本文の後に掲載する。歴史には「用語解説」は無い。
- ⑥ 本文に付されている参照資料の番号については削除する。
- ⑦ 吹き出しのキャラクターの名前は、第1巻の「教科書の使い方」で紹介されたものを用いる。ただし、紹介のないキャラクターは「生徒」、「先生」などのように適宜記す。また、先生は男女の区別はしないで記す。
- ⑧ 「学習のまとめと表現」などで、文字数を指定して答えさせる課題は、原典の指定文字数に対応した点字のマス数に置き換える。ただし、文字数が多い場合は、点字のマス数は約2倍とすることとする。

（5）写真・絵・イラストの取り扱い

- ① 原典にある写真等については削除するが、タイトルのみ、または、タイトルと説明文をできる限り掲載する。写真等のタイトルは7マス目から、説明文はその次の行の3マス目から記す。
- ② 写真等のタイトルや説明文について、原典の表現では不足する視覚的情報等を補うために、適宜表現を変更することがある。また、写真等の説明文が原典にない場合、必要に応じて新たな説明文を追加することがある。
- ③ 写真等のタイトルが原典にない場合は、適宜タイトルを付ける。
- ④ 原典の表紙にある写真については削除する。

（6）表の取り扱い

- ① 表のタイトルを7マス目から記す。
- ② 表の説明や注釈、凡例等がある場合は、5マス目から「表の説明」と記し、その次の行から説明等を記す。
- ③ 表が始まる前は1行空ける。
- ④ 数値は桁揃えとする。
- ⑤ 触察による読み取りの際の利便性・効率性を高めるため、折込みにしたB4の用紙に表を記す場合がある。

（7）グラフの取り扱い

- ① 原典にあるグラフについては、点図化、数表化、数表と点図の併記、文章化の処理を行う。

- ② 点図にするかどうかの判断は、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、全体的な点図の枚数等を総合的に考慮して行う。
- ③ グラフのタイトルを7マス目から記す。
- ④ グラフの説明や注釈、凡例等については、5マス目から「グラフの説明」と記し、その次の行から説明等を記す。
- ⑤ 原則としてグラフの説明や凡例を先に記し、次にグラフを示す。グラフの説明や凡例のみを枠囲みする。
- ⑥ グラフの説明や凡例を左ページに、グラフを右ページに配置し、できるだけ見開きとなるようにする。
- ⑦ 紙面の限界から、ページを縦長ではなく横長にしてグラフを掲載することがある。その場合、ページの左上に（横書き）と記す。
- ⑧ 棒グラフでは、原典では縦棒になっているものを点図では横棒にするなどの変更を行う場合がある。
- ⑨ グラフ中の項目はできるだけ省略しないことを原則とする。省略する場合は原則として連想しやすい表記とし、正式な名称を凡例で示す。
- ⑩ グラフの数値の読み取りを容易にするための目盛り線を凹点で表す。
- ⑪ グラフを数表化する場合、枠囲みに記す種別を「表（グラフ）」とし、原典ではグラフとなっていることを示す。同様に、数表とグラフの併記にする場合、枠囲みに示す種別を「表・グラフ（グラフ）」のようにする。

（8）地図の取り扱い

- ① 原典にある地図は、点図またはサーモフォームによる触図化、数表化、文章化の処理を行うか、削除する。
- ② 点図にするかどうかの判断は、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、全体的な点図の枚数等を総合的に考慮して行う。
- ③ 地形の高低差を表す必要がある場合は、サーモフォームによる触図化を行う場合がある。
- ④ 地図のタイトルを7マス目から記す。
- ⑤ 図の説明や注釈、凡例等については、5マス目から「図の説明」と記し、その次の行から説明等を記す。
- ⑥ 原則として図の説明等を先に記述し、次に地図を示す。図の説明等までを枠囲みする。
- ⑦ 図の説明等と地図ができるだけ見開きとなるようにする。
- ⑧ 紙面の限界から、ページを縦長ではなく横長にして地図を掲載することがある。その場合、ページの左上に（横書き）と記す。
- ⑨ 地図の範囲を表すために、地図の周囲を枠線で囲むことを原則とする。紙面の都合上、枠線で囲むことが困難な場合は省略することがある。
- ⑩ 地図中の地名等は省略しないことを原則とする。省略する場合は連想しやすい表記を原則とし、正

式な名称を凡例で示す。

- ⑪ 陸地と海の区別を容易にするため、地図中の海を原則として凹点で表す。
- ⑫ 地図中の縮尺表示は、地図の意図する位置関係に主眼を置くため、原則として省略する。
- ⑬ 点図化する際の技術的な限界や、触覚的理解の困難さを考慮し、図の簡略化やデフォルメを行う場合がある。
- ⑭ 地図の掲載事項は、当該の単元で主に学習する内容を優先して掲載した。全体としては学年、教科や分野、単元で、代表的かつ頻繁に使用するものを、触読による判別の可能な限り記載する。特に日本の領土・領域に関する事項は、原則としてすべて掲載するが、触読による判別ができるよう配慮する。
- ⑮ 地図を表や説明にする場合、枠囲みに記す種別を「表（地図）」「説明（地図）」とし、原典では地図となっていることを示す。
- ⑯ 触察による読み取りの際の利便性・効率性を高めるため、折込にした B4 サイズの用紙に点図を示す場合がある。また、位置関係の把握を促すために、注目すべき部分を拡大・縮小した地図を追加する場合がある。

（９） 図の取り扱い

- ① 原典にある図は、点図による触図化、数表化、文章化の処理を行うか、削除する。
- ② 点図にするかどうかの判断は、触察上の分かりやすさ、内容の理解のしやすさ、全体的な点図の枚数等を総合的に考慮して行う。
- ③ 図のタイトルを 7 マス目から記す。
- ④ 図の説明や注釈、凡例等については、5 マス目から「図の説明」と記し、その次の行から説明等を記す。
- ⑤ 原則として先に説明や凡例を記述し、次に図を示す。図の説明等までを枠囲みする。簡易な図の場合は、説明や凡例がないこともある。
- ⑥ 説明と図ができるだけ見開きとなるようにする。
- ⑦ 紙面の限界から、ページを縦長ではなく横長にして図を掲載することがある。その場合、ページの左上に（横書き）と記す。
- ⑧ 図の範囲を表すために、図の周囲を枠線で囲むことがある。
- ⑨ 図中の名称等は省略しないことを原則とする。省略する場合は連想しやすい表記を原則とし、正式な名称を凡例で示す。
- ⑩ 点図化する際の技術的な限界や、触覚的理解の困難さを考慮し、図の簡略化やデフォルメを行う場合がある。

（10） 二次元バーコードの取り扱い

- ① 教科書中の二次元バーコードについては削除するが、各分野の第 1 巻「教科書の使い方」にまなびリンクの目次のページの URL を掲載した。